

発行/MISA JAPAN 事務局 TEL(076)434-2453

http://www.misajapan.info/ E-mail misajapan@myad.jp

MISA JAPAN Monthly Magazine



馬場島の座禅桜(左・上)と劔折戸菊桜(下)

## 馬場島の座禅桜と劔折戸菊桜

劔岳の登山口・馬場島(ほんぼじま)の県道沿い(馬場島荘のすぐ手前)に、座禅桜の愛称で親しまれるオオヤマザクラ(大山桜)がある。路傍の大きな岩の上であたかも桜が座禅を組んでいるかのように見えるのが名称の由来。見頃は4月下旬からゴールデンウィーク頃が目安。まだ解けきらない残雪とのコントラストが美しい。松川べりのソメイヨシノ等の豪華な咲きぶりとは異なり、山桜特有の静かな佇まいは、逆に新鮮に映るかもしれない。桜は樹齢約150年で高さが約10mあり、大きな岩(高さ1.6m、横幅5m、奥行き3m)に沿って根を張り、5本の幹から枝が伸びている。馬場島から上市町の市街地へ至る峠の手前・折戸地区の沿道には、「富山さくらの名所70選」に選定された劔折戸菊桜(つるぎおりときくざくら)があり、こちらも開花時期がオオヤマザクラとほぼ重なり(劔折戸菊桜の方がやや開花時期が遅い)、一緒に愛でることもできる。

2017.4

## 県内オールロケ作品

# 真白の恋



2000年頃から県内を舞台とした映画が何本も制作されています。そんな中、県内オールロケ作品・映画『真白の恋』が話題になっています。すでに劇場でご覧になった方も多数いらっしゃるかと思いますが、2月からのロングラン上映ですので、まだ観ていない方は上映終了前にぜひ劇場へ足を運ぶことをお勧めします。近いうちに本作品の感想会を設けて、さまざまな感じ方を披露しあえたらと考えています。



### ★著名人のコメント

こんな素敵な映画が私の故郷、新湊で撮影されてたなんて。

懐かしい神社や運河沿いの道、小さな町並みのなかで登場人物たちが紡ぎ出す、透明感あふれるドラマは、ともしれば重くなりがちなテーマを優しく包み込み、見終える頃には何ともいえない不思議な清々しさで心いっぱいになりました。まるで坂本マジックにかかっていたような…。

立川志の輔〈落語家〉

久しぶりに映画を見てヒロインに恋をした！主演の佐藤みゆき恐るべし！

普段は意識していない生活音や人の息づかい、足音など、生々しくも繊細な音作りと画作りは新人監督とは思えぬクオリティー。坂本監督の才能に惚れました。

阿部真士〈テレビ東京プロデューサー〉

坂本かが映画を撮った。地元の富山の港町で。映画とは人との関係なのだ、スタッフキャストとの関係なのだ、素直に伝わってくる。優しく一生懸命な監督の人柄がそのまま画になって、息づいている。これはそう簡単なことではない。

富樫森〈映画監督〉

主人公「真白」の真っ直ぐな心に引き込まれ、自然と感情移入ができる作品でした。私の場合は、親の立場からなのでしょうか、それとも初恋をした淡い記憶なのでしょうか。

いつも変わらずある射水市の景色の中でゆったりと流れる時間とそこにある一家族の葛藤や愛情のドラマが、見た人がどこか懐かしさを覚え、郷愁を誘う物語となっていると感じました。

舞台となった射水市が美しく映像に映し出され、ふるさとの良さが再発見できる素敵な作品です。是非とも多くの皆様にご覧いただきたいと思います。

夏野元志〈射水市長〉

工作上、これまで多くの「真白」の家族と接してきたので共感(理解)できることが多くありました。但し、「真白」の言葉は初めてです。是非多くの人に真白の言葉を聴いてほしいと思いました。天狗平山荘から望む夕方の富山平野は映画の通りです。素晴らしい写真が撮れます。

舟橋貴之〈立山町長〉

### Introductio

“日本のベニス”と呼ばれるほど美しい景観を誇る、富山県射水市。この港町を舞台に、軽度の知的障がいのある主人公・真白(ましろ)の初恋を描いた『真白の恋』は、富山市出身の坂本欣弘監督をはじめ、富山に縁のあるキャストも参加。小説や漫画が原作となる日本映画が多い中、オリジナル脚本であることにこだわった本作は、様々な問題に直面しながらも前向きに人生を歩んでいく人々の姿を描きつつ、富山の魅力も伝える珠玉の感動作となっています。

オール富山ロケが最大の魅力となっているこの映画を監督したのは、自身も富山出身という坂本欣弘。『きみはいい子』の呉美保監督や『おしん』の富樫森監督の元で助監督を務めてきた彼にとって、これが本格的な映画監督デビュー作。そしてアートディレクターには、フジテレビ・木村拓哉主演「HERO」、明石家さんま主演「空から降る一億の星」などの宣伝美術を担当する吉澤正美を起用。坂本監督の意思に賛同した著名なクリエイターたちが、この映画のもとに集結しました。

### Story

渋谷真白は、生まれてからこれまで、家族と共に富山で暮らしている。

見た目にはそれとわからないが、真白には、ごく軽度の知的障がいがある。日常生活に支障はなく、現在は父の営む自転車店の店番をしたり、飼犬の世話をしたりと、元気に暮らしている。

ある日、兄の結婚式で神社を訪れた真白は、東京からやって来たフリーカメラマン、油井景一に出会う。

真白の、生まれて初めての恋。

応援する人、心配する家族。

その中で真白は何を感じ、どう成長していくのか…。

自然豊かな富山に暮らす、

ひとつの家族の、「優しさ」と「葛藤」を描く。

この映画が、あなたの心に響くことを願って。



## 春の入会キャンペーン

新学期・新年度も始まり、フレッシュな環境を迎えた方も大勢いらっしゃると思います。MISA JAPANでは、そんな方々を応援するため、「春の入会キャンペーン」を企画しました。

4月中に入会された方に限り、入会金を無料にいたします。

ご家族・ご友人でヨガに関心のありそうな方に、ぜひご案内してあげてください。

また回数券の有効期限等に一部追加(有効期間9ヵ月版)があります。詳しくはホームページにて確認して下さい。

今後もより便利でリーズナブルなレッスンを心がけますので、よろしくお願ひします。

## You Tube ウォッチング vol.3



世界中が泣いたタイの感動CM 2本を紹介しします。タイのCMは、仏教国特有の「積善精神」が愚直に信じられている文化背景もあるだろうが、レベルが非常に高いことで評判です。

最初のタイの保険会社制作の父娘の愛情を描いた感動CMは、子を思う親の気持ちは万国共通であることがよく理解できます。ずいぶん前の古い動画のため画質はあまり良くないのですが、未だに再生回数のカウンターを回転させ続けているCMです。

次の「CM史上最高感動作」とまで言われる話題のCMは、タイの携帯電話会社の制作です。その胸をうつストーリーが注目を集め、再生回数は1000万回を超えています。実はこのCM、著名な米国医師ハワード・ケリー医師の実話に基づき制作されたものです。CMと言うよりは、短編映画のダイジェストのようにすら感じます。

① <https://www.youtube-nocookie.com/embed/VFre8uJQdBM?rel=0>

② <https://www.youtube.com/watch?v=5bkmlhhKClk>

★PDFデータをご覧の方は画像をクリックすると動画が再生されます。



## 盲導犬訓練をリサーチ **ハードは変えられなくても ハートは変えられる**



視覚障害のある方を助ける仕事をしている盲導犬。街中で見かけることはあっても、盲導犬たちがデビューするまでの過程はあまり知られていません。

昨年2016年は、盲導犬が誕生して100年という節目の年でした。そこで今回は、盲導犬のことをもっと知ってほしいという思いから、実際に盲導犬たちがどんな訓練をし、どんな生活を送っているのかを紹介します(日本盲導犬協会・神奈川訓練センター)。

### ■盲導犬の始まりは負傷兵がきっかけ

盲導犬の育成が始まるきっかけになったのは、第一次世界大戦で負傷した軍人を介助するためでした。ドイツでは当時、戦場で負傷し失明してしまった人が大勢いました。そこで軍用犬を育成していたハインリッヒ・スターリン博士が、犬が視覚障害の手助けをしてくれるのでは? と思いつき、犬の訓練士と一緒に盲導犬の訓練方法を研究しました。

そして、1916年にドイツのオルデンブルグに盲導犬の訓練学校が設立され、同年10月に世界初の盲導犬がデビューしました。

日本に初めて盲導犬が来たのは1939年で日本盲導犬協会ができたのは1967年。「身体障害者補助犬法」という法律で、施設への出入りや交通機関に乗れるようになったのは2002年になってからです。盲導犬の日本での歴史はまだ浅いと言わざるをえません。

(次ページへ続く)



世界初の盲導犬とユーザーのポール・フェインさん

コンタクトレンズのトップメーカー・(株)メニコンは、目に携わる企業として目の安全啓発活動に取り組んでいます。コンタクトレンズ・眼内レンズ開発で培ってきた高度な技術力を動物の眼科医療にも応用し、グループ会社のメニワンや獣医師会の協力のもと、補助犬(盲導犬、聴導犬、介助犬)眼科健康診断に協力しています。補助犬を必要とされる方の安全は、補助犬の「目」の健康状態によって左右されます。クリアビュー(眼底検査カメラ)など眼底検査に必要な機器を提供し、眼科検をサポートしています。また、現役引退後の補助犬を全面的にバックアップしている企業としても知られています。

## ■盲導犬の仕事

人が移動する時は、モビリティ(徒歩などの移動行為)とオリエンテーション(現在地と目的地の把握)の組み合わせで成り立っていますが、盲導犬の仕事はモビリティのお手伝いだけです。道順についてはユーザー側の領域です。

盲導犬の仕事の内容を大きく分けると、次の3つに分類されます。

### ① 角を教える(写真A)

角に来たら、体をユーザーに対して斜めに入れます。これでハーネスの角度が大きく変わるので、角に来たことがユーザーに伝わります。



写真A

ユーザーは移動する時に、いくつ目の角で右に行くとか、左に行くとかで道順を覚えているので、角を教えることはとても大事なことです。もちろんユーザーから指示されるまでは、ずっと待っています。

### ② 段差を教える(写真B・写真C)

段差を教える時は、止まってユーザーに教えます。盲導犬が止まるとユーザーは足元で段差を確認してから進みます。

上りの時は階段の1段目に足をかけて止まると、ユーザーの持っているハーネスの角度が変わります。角度が変わること、盲導犬が止まることの両方で段差を伝えます。下りの時は段差ギリギリで止まるようにします。正確にいうと、上りでも下りでも階段の5cm以内に止まります。結構ギリギリですが、これを守らないとユーザーが危険にさらされます。点字ブロックではなく、ギリギリで止まるということがとても大事です。



写真B

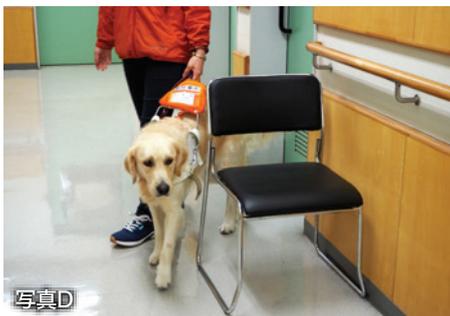


写真C

### ③ 障害物を避ける(写真D)

障害物を避けるのも大切な仕事です。障害物というと足下をイメージしがちですが、ユーザーの頭上にある障害物にも十分注意します。

最近は歩きスマホをしている人も時折いるので、動きを予測しながら歩くこともしばしばです。



写真D

## ■盲導犬としてデビューするまでの過程

子犬の頃は、パピーウォーカー(1歳になるまで候補犬を預かるボランティアの方)の元で過ごし、とにかく人間のことを大好きになってもらいます。もちろん、

待て、おすわり、伏せといった基本動作もこの間に学びます。

日本盲導犬協会では、月に1回パピーレクチャーというしつけのレッスンも行い、パピーウォーカー家族にも子犬との接し方を学んでもらったり、相談にのったりしています。

1歳頃になったら、訓練センターに戻って盲導犬になるための本格的な訓練を始めます。訓練を受けていく中で、性格や体格などの面でキャリアチェンジをする犬もいます。具体的には、PR犬になる犬、一般の家庭で過ごす犬、介助犬の道に進む犬など様々です。

## ■盲導犬の訓練

盲導犬の訓練スケジュールは、それぞれの犬に合わせて進めていきます。最初は、おもちゃやボールを使って名前を認識することや「good」と褒められることを教えます。こうしたコミュニケーションを取っていくことで、人間といることは楽しい、触られることは褒められていることだと理解してもらいます。

訓練というと厳しいものをイメージしますが、遊びを通して楽しく学んでいくスタイルです。角や段差を教えること、障害物を避けることを、それぞれの犬の性格に合わせて様々な工夫をしながら、犬が理解をしているかを確認しながら進めます。地道な訓練だからこそ、犬との信頼関係が大切です。

性格的に臆病な犬には少しずつゆっくり進めます。好奇心旺盛な犬にはいろんなことを教えていきます。こうした犬の性格や特性を見極めるまでが大変です。

## ■盲導犬の普段の生活

盲導犬はとても規則正しい生活を送ります。たとえば神奈川訓練センターでの場合、朝6時に起きてトイレ、それからご飯を食べて身だしなみのケア、訓練をしたら少し休憩してまた訓練、夕飯を食べてからトイレ、夜9時には就寝の生活を繰り返します。盲導犬は人から指示があった時のみトイレに行くよう訓練してあります。将来、ユーザーと暮らし始めた時、勝手にトイレに行ったらユーザーが困るので、適切な場所でできるようにユーザーと一緒にトイレのタイミングも勉強しています。

盲導犬としてデビューすると、ユーザーの通勤や通学など、移動している時間はトータル2時間程度です。どちらかというど待っている時間の方が長いので、落ち着いて待機できることが重要です。どんなに歩行の技術が優れていても、待機時間にいたずらしてしまったりすると盲導犬としては失格です。自宅では普通の家庭犬と同じように室内で過ごしています。

盲導犬としてデビューした後も、訓練センターの職員が定期的にユーザーの元を訪問して、歩行の様子や体調等を確認して、ユーザーと盲導犬のペアをいつも見守っています。

## ■引退後の盲導犬

盲導犬は10歳が引退の日安です。2歳でデビューして10歳で引退ですから、盲導犬としては約8年間が現役です。もちろん生き物ですから、体調によっては引退時期が早まることもあります。

引退後はいくつかパターンがあって、デビュー前にいっしょに過ごしていたパピーウォーカーのところに帰るケース、ユーザーに近い方(親戚など)のお宅で過ごすケース、ボランティアに引き取ってもらうケースなどあります。

しかし、重篤な病気がある場合は特別なケアができるよう、日本盲導犬協会の富士ハーネスという施設で手厚いケアを受けながら余生を過ごすケースもあります。

## ■最後に

パピーウォーカーをはじめ、繁殖犬の世話、犬舎での世話、募金などのイベントの手伝い、盲導犬の仕事着を作る手伝いなど、彼らがデビューするまでにはたくさんのボランティアの方関わっています。盲導犬のことを多くの方に知っていただくとともに、こうしたボランティアの方々への感謝も忘れてはいけません。一生懸命に頑張る盲導犬を見かけたら、ぜひ応援してあげてください。(勝手になでたり、食べ物を与えたりのマナー違反には注意しましょう)